

● リビア国民評議会の主要メンバーの横顔

(2011年3月15日掲載)

リビア情勢は、軍事面では、空軍を持つと共に武器類で勝る体制側が徐々に反体制派を押し戻しつつある。また、外交面では、反体制派が特に欧州への説得工作を強めており、その一環としてフランス政府からは国民評議会側を正統な政権と認めさせることに成功している。体制側も、エジプトやマルタ、ポルトガル等に特使を派遣し正統性の確保を図ると共に飛行禁止空域の設定の動きを牽制している。同時に、体制側は水面下で最悪時に備えた動き、即ち、カダフィ大佐と親族の脱出についても打診・交渉しているふしがかがえる。

こうしたなか今後の焦点として注目されるのが、ベンガジに設立されたリビア国民評議会の動向である。これまで同評議会についてはほとんど伝えられてこなかったが、主要メンバーを見る限り、閣僚や主要な政府ポストを務めたこともある有能な人物も含まれている。これらメンバーは国民の意思の反映される民主的な政府の創設を志向する人たちである。また、主要メンバーの数人は数年の間に日本を訪問し関係者と当時の管掌分野について協議・意見交換等を行っている点は注目に値しよう。

以下では、現時点で判明している国民評議会の主要メンバーの横顔を紹介することとしたい。31人の委員は、アジュダビヤ、クフラ、ガト、ナルート、ミスラタ、ジンタン、ベンガジ、ベイダ等の出身者である。

表 国民評議会の主要メンバーの横顔

氏名	横顔・主な特徴等
ムスタファ・ムハンマド・アブドウル・ジャリル議長	<ul style="list-style-type: none"> ★ 政府が平和的なデモに過剰な暴力的取締りを行ったことに抗議して、2011年2月11日に法相を辞任した。 ★ 1952年、アル・ベイダ生まれ。 ★ リビア大学卒業（アラビア語及びイスラム学専攻）後、ベイダ検察庁に勤務する。1978年、判事に就任。2002年、控訴院長官就任。2007年、法相就任。 ★ カダフィ政権は、2011年3月9日、同人に40万ドルの懸賞金をかけている。

<p>アブドゥル・ハフェズ・ゴージャ副議長兼報道官</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★ ベンガジ出身の人権派弁護士。元リビア法曹協会会長。 ★ ベンガジの反政デモの激化した2011年2月19日、当局により逮捕されるが、数日後に釈放された。 ★ 当初、ムスタファ・ムハンマド・アブドゥル・ジャリル前法相が暫定政権の設立を打ち出すなか、国民評議会の設立を発表し対立が危惧された。結局、3月初旬に両者が合体し、ゴージャ氏は国民評議会の現ポストに就任した。 ★ セイフ・イスラム・カダフィ氏は、アラビア語紙アッシュアルク・アル・アウサット紙で次のように述べ、同人を裏切り者と切り捨てている。「僅か2週間前にはアブドゥル・ハフェズ・ゴージャ氏はカダフィ大佐のテントに坐り、大佐を褒めたたえていた」「また、アル・ジャジーラTVでは、リビアや体制を擁護する発言をしていた」「しかし、今、体制転覆を話している」。
<p>オマル・アル・ハリリー危機管理委員会軍事責任者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★ 1969年の軍事クーデターに参加。同人(67歳)は3月2日付のグローブ&メール紙で「まだ共に若い軍人のころ、カダフィ大佐に自動車の運転を教えたことがある。その後、反イドリス国王クーデターを謀議した」と思い出を語っている。同時に、「クーデター当時、軍将校が新たなリビアに関する明確な計画を持っていなかったことを後悔している。同じ過ちを犯してはならない」「今回は市民が我々を守ってくれる」「市民が大統領を選出する。但し、任期は一定期間だけとする」「大統領といえども、市民のためにならねば追放される」「勿論、新政府には議会も必要だし、多党制でなければならない」と語り、しっかりした青写真を作成する意向を示している。 ★ 同人は革命内閣の事務局長を務めていた1975年に、仲間の将校と軍事クーデターを計画したが発覚し逮捕された。逮捕者約300人のうち4人が拷

	<p>間で死亡し、21人が死刑判決を受けたが同人はその一人であった。</p> <p>★ 同人は、その後15年間、刑務所で処刑の日を待つ生活を送った。このうちの4年半は独房での幽閉であった由。1990年、カダフィ大佐が突然減刑し、トブルクでの自宅軟禁処分となった。今回の反政府暴動の発生まで秘密警察の監視下にあった。</p> <p>★ 今、同人は、国際社会に飛行禁止空域の設定や体制派軍事施設の空爆を求めている。また、同人は、最終的にカダフィ政権は崩壊するが、大佐が大人しく去ることはないとしている。</p>
<p>マフムード・ジブリー ル危機管理委員会委員長 (首相級)</p>	<p>★ 今回の反政府デモの発生直前まで国家経済開発理事会(NBAD)委員長として、多くの知識人と共に民主国家を目指す「リビア・ビジョン」と名付けられたプロジェクトに関与していた。</p> <p>★ 1952年生まれ。ピッツバーグ大学政治学修士号を取得後、戦略計画・意思決定博士号を取得した(1984年)。専門書を何冊か書いている。またアラブ諸国で指導者研修事業にも携わってきた。</p> <p>★ その後、リビア国家計画委員会(LNPC)委員長を経て、上述した国家経済開発理事会(NBAD)委員長に就任。</p> <p>★ 経歴が示すように改革を指向しており、多くの人たちとの意見交換による政策の立案を大事にする人物といわれる。</p> <p>★ 2010年5月に来日し、直島経済産業相(当時)ほかの日本関係者と意見交換している。</p>
<p>アリ・イサウイ危機管理委員会外交責任者</p>	<p>★ 政府が平和的なデモに過剰な暴力的取締り及び外国人傭兵の起用に抗議して、2011年2月11日に駐インド大使を辞任した。</p> <p>★ 1966年、ベンガジ生まれ。</p> <p>★ ブカレストの経済研究学院で博士号(民営化)取得。2005年に民営化を促進する政府組織の所有拡</p>

	<p>大プログラムの専務理事に就任。翌 2006 年には、輸出開発センターを創設した。</p> <p>★ 2007 年には、同相としては史上最年少となる経済・貿易・投資相に就任している。</p> <p>★ 2009 年の内閣改造で同職を去ったが、腐敗を批判したことが原因といわれている。尚、同人には、セイフ・イスラム・カダフィ氏が 2008 年に組成した影の委員会委員に任命され、政府改革計画の詳細を任されていた経緯がある。」</p>
<p>アフメド・アル・ズベイル・アフメド・アル・サヌーシ委員</p>	<p>★ 1970 年に発覚したクーデターに関わっていたために逮捕され、以降 31 年に亘り獄中にいた。大半は独房であった由。</p> <p>★ 2001 年の革命記念日に釈放された。</p>
<p>ファトヒ・ムハンマド・ベジャ委員</p>	<p>★ ベンガジ大学教授（政治学）。58 歳。</p> <p>★ ベンガジ市評議会議員。</p> <p>★ 2 月 17 日革命連合のメンバーでもある。</p> <p>★ 同人は、タイム誌（2 月 22 日）で、次のように述べていた。「我々はカダフィ大佐のクーデターは自由と人権のためと思っていた」「しかし、あれから 40 年が経って、完全な混沌になってしまった」「それは国家ですらなく、残忍な独裁制である」。</p> <p>★ また、同人は、革命により達成すべきマニフェストを書いている。このマニフェストでは、国家統一と民主主義を二大原則としている。</p> <p>★ 同人はマニフェストについて、「それは全てのリビア国民のためのものである。それが、第一である。第二は、この革命は近代リビア、多元化した社会や人権、全ての国民による政府・機構作りへの参加を基本とする自由と民主主義を目指すものである」と説明している。</p>
<p>ファトヒ・ティルビル・サルワ委員</p>	<p>★ 青年弁護士兼政治活動家。</p> <p>★ 1996 年にベンガジの反乱への報復として治安部隊</p>

	<p>に虐殺されたアブ・サリム刑務所の受刑者の家族約 1200 人をまとめて、2011 年 2 月 15 日にベンガジで反政府デモを組織した中心人物である。</p> <p>★ 同人がベンガジ革命委員会により拘束され警察署で取り調べを受けていたことから、反政府デモ隊が釈放を求めたデモを行ったのを受け警察官が発砲し、その後の広範な反政府抗議デモへとつながった。</p>
<p>その他氏名の知られている委員は、以下の通り。</p> <p>サルワ・アル・ディガリ委員（女性）</p> <p>アフメド・アブドゥラ・アル・アバル委員（ベンガジ出身）</p> <p>オスマン・スレイマン・アル・メルグラヒ委員（バトナン出身）</p> <p>アシュール・ハミッド・ブ・ラシッド委員（デルナ出身）</p> <p>アブドゥル・イッラー・ムーサ・アル・メユーブ委員（クバ出身）</p>	

(3 月 11 日、記)



出所：CTV.ca News Staff 2011年3月10日

左からサルコジ仏大統領、アリ・イサウィ危機管理委員会外交責任者、
マフムード・ジブリール危機管理委員会委員長